

第 49 回下越内科集談会

日 時 平成 20 年 11 月 21 日 (金)
 会 場 ホテル新潟 3 階
 飛翔の間

一 般 演 題

1 MR ワクチン接種後に左軟口蓋麻痺を呈した
1 例

笹川 朋子・須貝 章弘・赤岩 靖久
 徳武 孝允・高野 弘基・西澤 正豊
 新潟大学医歯学総合病院神経内科

症例は 12 歳男児。MR ワクチン接種 5 日後より喉の違和感を自覚し、6 日後からは鼻声や飲水時の華への逆流症状を呈するようになった。神経学的診察では左軟口蓋の挙上不全を認めるのみで、その他の異常はみられず、左迷走神経単独の障害が疑われた。声帯麻痺を認めなかったことから、軟口蓋を支配する咽頭神経叢の局所的障害が考えられた。頭部 MRI および頸部 CT では頭蓋内外の迷走神経走行路を障害する明らかな病変を認めなかった。髄液検査で細胞数増多や蛋白上昇、サイトカイン異常はみられなかった。上下肢の神経伝導速度の結果は正常であった。

特発性の軟口蓋・咽頭筋麻痺のみを来した症例は、国内外でも少数例しか報告されていない。男児に多く、声帯麻痺を伴う症例に比べて予後が良好とされており、自然経過で改善した例も報告されている。原因は明らかではなく、ウイルス感染または免疫学的機序の関与が推定されているものの根拠には乏しい。本症例では、MR ワクチン接種後に発症しており、なんらかの免疫学的機序の可能性が示唆される重要な 1 例と考えられ報告

する。

2 呼吸不全で発見された筋萎縮性側索硬化症の
1 例

吉岡 大雄・鈴木 栄一・山岸 格史*
 田島 俊児*・小屋 俊之*・田中 洋史*
 中山 秀章*・高田 俊範*・下条 文武*
 下畑 享良**
 新潟大学医歯学総合病院臨床研修
 センター
 同 大学院医歯学総合研究科呼吸
 器内科学分野 (第二内科)*
 同 脳研究所神経内科学分野**

症例は 78 歳、男性で、数年前より食欲、意欲低下があり、2008 年 2 月頃より呼吸困難感、易疲労感、体重減少などが出現した。4 月、当院消化器内科で、年 15Kg の体重減少の精査を行うも、器質的な疾患はなかった。しかし、食欲、意欲低下、呼吸困難感が進行し、精神科受診し、うつ症状に伴うものと考えられたため、6 月、加療目的に同科に入院した。呼吸困難感が増悪し、心不全、2 型呼吸不全を呈し、誤嚥性肺炎にて炭酸ガスナルコースへ進行したため、挿管・人工呼吸管理となり、当科兼科となった。入院時よりいそうと拇指球の萎縮があった。胸部 CT 上、浸潤影と CRP の上昇があり、抗菌薬にて改善し、抜管を試みるも、再挿管となった。この時点で、一度、神経内科にコンサルトをしたが、筋電図実施不能で身体所見のみでは、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) は考えにくいとの事であった。気管切開し、人工呼吸器から何とか離脱をしたが、高炭酸ガス血症は持続し、増悪傾向で、痰詰まりを契機に呼吸状態悪化し、ミニトラック挿入、非侵襲的陽圧呼吸療法を行った。神経内科にて、針筋電図を実施し、神経原性変化と筋線維束攣縮の所見を認めたため、転科となった。呼吸器症状にて発症する ALS があり、疑って診療を行うことが重要である。